

## 祝 2 号の原原種<sup>はしゅ</sup>生産のための播種作業

当センターでは、府内で生産される主要な水稻品種の元種となる「原原種生産」を担っており、この度、昨年生物資源研究センターで育成した祝 2 号の原原種生産のための播種作業を行いました。

播種作業は、祝 2 号を 5 群 5 系統に分けた 25 種類の種子について、取り違えの無いように、育苗箱に少量ずつ播種を行いました。

今後、良質な原原種が生産できるよう、生育状況や収穫物を確認していきます。

※ 原原種: 種子生産を行うための、大本となる元株及びその種子



はしゅ  
播種 作業の様子



はしゅ  
播種 後の育苗箱  
(撮影後に覆土を実施)

試験研究課題:黒大豆エダマメを栽培する大規模営農組織における栽培  
技術体系の確立と販売力の向上

(1)環境負荷を低減する持続可能な管理技術の開発

①肥培管理技術方法の開発

## 緑肥を利用したエダマメ栽培試験

当センターでは、黒大豆エダマメと水稻の輪作体系を通じて環境負荷を低減することを目的として、昨年度からエダマメプロジェクトを実施しています。その中で、地力とエダマメの生産性が持続できる肥培管理技術として、緑肥を利用した栽培試験を行っています。

当センターでは、これまでにマメ科の緑肥作物であるヘアリーベッチを利用した黒大豆栽培体系を確立しており、エダマメでも定植前にヘアリーベッチをすき込むことで、化学肥料施肥量の削減ができないか検討を進めています。

ヘアリーベッチを土壌にすき込み易くするため、5月22日にフレールモアを用いた細断を行いました。今後、ヘアリーベッチをすき込んだほ場でエダマメを栽培し、生育や土壌への影響について調査を行います。



フレールモアを用いたヘアリーベッチの細断

## ミニチュア採種園でカメムシ類防除を実施

当センターでは、少花粉スギ<sup>※1</sup>のミニチュア採種園<sup>※2</sup>を造成し、良質な種子を安定供給して優良なスギ品種の林業用苗木を早期に普及していく取組を進めています。

良質な種子を採取するためには、カメムシ類によるスギ球果<sup>※3</sup>への加害を防ぐ必要があります。従来は、薬剤散布により防除していましたが、近年全国では、球果を着けた小枝ごとに網袋で覆う方法を採用する県の機関が増えています。当ミニチュア採種園では、今回、採種木全体を大きな網袋で覆う方法を試みました。今回の方法の防除効果と、採種木の生長や球果の成熟への影響を見ていくこととしています。

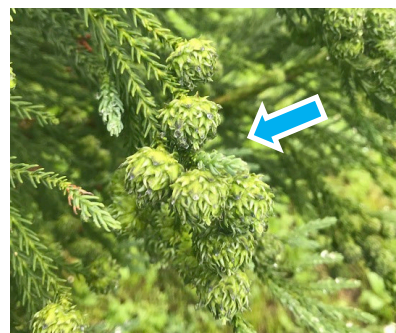
また、カメムシ類によるスギ球果への加害は、5月下旬から始まるため、その時期より早く5月上旬には袋掛けを終えています。

※1 少花粉スギ:雄花をわずかししか着けず、花粉をほとんど飛散させない特性を持ったスギの品種

※2 ミニチュア採種園:採種木の樹高を1.5m程度に抑えた小型の採種園で、造成から種子採取開始までの期間の短縮や単位面積当たりの良質な種子生産量の増大などが期待できる



採種木を網袋で覆った状態



スギ球果



## 緑化センターで府立林業大学の育苗実習（第1回）

当センターで、府立林業大学の授業として林業用種苗の生産技術を学ぶ育苗実習(第1回)が5月11日(水)に実施されました。

出席した府立林業大学の1年生11人は、講師の当センター職員から、研修室で林業用の優良苗木の生産についてガイダンスと発芽促進や播種<sup>はしゆ</sup>床づくりの説明を受けた後、場内のほ場に出て少花粉スギ<sup>※1</sup>の播種<sup>はしゆ</sup>の实地指導を受けました。

今回の播種<sup>はしゆ</sup>で得られる稚苗は、11月の苗木づくり実習に使用の予定で、当センターでは今後も、京都の森林・林業を担う人材育成の取組を支援していきます。

※1 少花粉スギ:雄花をわずかしか着けず花粉をほとんど飛散させない特性を持ったスギの品種



少花粉スギの種子を播く学生



ほ場実習後には樹木実習も実施

## カンショ（サツマイモ）苗の植え付けを行いました

丹後地域では加工（干し芋）用カンショの契約栽培が推進され、生産面積は年々拡大しています。一方で、比較的新しい産地であることから、他府県産と差別化できる食味に優れた品種を選定してほしいとの要望があります。また、干し芋品質を低下させる生理障害「シロタ※」が生産振興上の課題となっています。

そこで今年度は、複数の有望品種を比較して収量性や品質を評価するとともに、畑の水管理の違いが「シロタ」発現程度に及ぼす影響を調査することになっています。

※「シロタ」:干しイモの一部が硬く白化し、品質が劣化する生理障害。



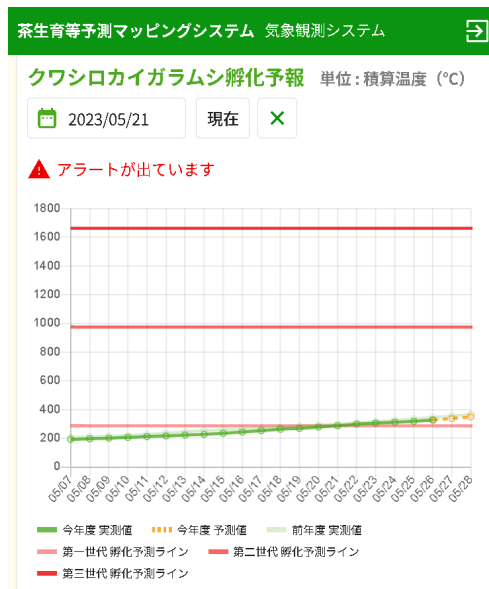
5月30日に、「べにはるか」や「あまはづき」、  
「ほしあかね」などの品種を植え付けました。

## 気象データを活用した茶園ごとの害虫防除適期予測

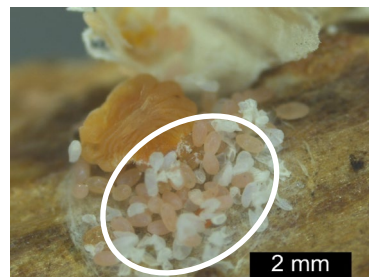
クワシロカイガラムシは、茶樹の枝に寄生して吸汁し、最悪の場合、茶樹を枯死させる茶の重要害虫です。防除適期は卵から孵化して2~3日の間に限られています。幼虫は0.3mm以下と肉眼での観察が困難なサイズであるため、防除適期の見極めが非常に難しい害虫です。

当所が開発した「茶生育等予測マッピングシステム」では、茶園ごとに推定した気温の積算によりクワシロカイガラムシの孵化時期を予測可能であり、今年度は府内各地で実証を行っています。本システムのメールアラート機能により、当所茶園で孵化時期になったと通知があり、調査を行ったところ防除適期であることを確認しました。

今後は本システムの利用可能地域を広げつつ、予測できる機能を拡大していく予定です。



システムのアラート画面



上:枝に付いた幼虫(肉眼では見えない)  
 下:カイガラ内で孵化した幼虫(顕微鏡写真)



## 生産現場における製茶省力化試験の実施

てん茶製造工程において、蒸熱・乾燥条件の設定は、経験の蓄積を要する技術です。この条件を設定するために生葉の繊維含有量は重要な指標であることが近年の研究で明らかになってきましたが、現在の技術では迅速かつ簡単に測定することができません。

そこで、当所では、茶の生葉繊維含有量を迅速かつ簡易に測定し、さらに適切な蒸熱・乾燥条件を測定値に基づき設定する研究を進めています。一番茶期に5か所の生産現場を訪問し、現地生葉の繊維含有量の測定を行ったところ、現地の茶園においても当所が開発した方法により概ね測定できることを確認しました。

今後は、得られた生葉の繊維含有量のデータに基づき、蒸熱・乾燥条件の自動設定ができるシステムを開発する予定です。



生産現場で茶の生葉の繊維含有量を測定する研究員

## 宇治茶実践型学舎の一番茶期実習を実施

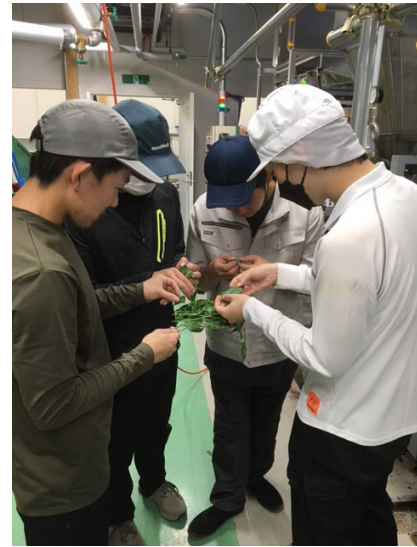
当所では、令和元年度から宇治茶実践型学舎を開講し、新規に宇治茶生産農家を目指す担い手の育成を進めており、令和4年1月に3期生が1名、同年11月には4期生が1名入舎し、現在2名の学舎生が就農に向けて研修に励んでいます。

4月25日～5月18日に当所の一番茶期の摘採・製造実習を実施しました。学舎生にとって、年に一度の貴重な一番茶期の作業経験であり、摘採機の取扱いや揉み茶・てん茶製造方法を研究員から学びました。

また、3期生は、南山城村の共同製茶組合において実地研修も行い、茶業技術を習得するとともに農業者との信頼関係を深め、就農に向けた準備を進めています。



茶の摘採実習(当所)



茶葉の蒸し状態を教わる  
学舎生達(当所)



## 耕畜連携キックオフ「ペレット肥料作製見学会」

5月24日に当センターにおいて「鶏糞を原料にしたペレット肥料作製見学会」が京都府飼料用米生産利用推進研究会の主催で開催され、会員の農業者や農業改良普及センターなど51名が参加しました。

当センターでは研究会がレンタルした装置を約2週間設置してペレット肥料を試作しており、見学会ではペレット肥料作製の実演を行いながら、見えてきた課題や作製のコツを共有しました。

参加者からは「ペレット化することで臭気が抑えられるのではないか」「円柱形より球形に近い方が使い易い」など多くの意見が出され、関心の高さがうかがわれました。

研究会では今後、試作したペレット肥料を飼料用米ほ場等で使用し、使用感や稲の生育等を調査する予定です。当センターでは引き続き関係機関と協力し、耕畜連携に向けた取り組みを推進していきます。



ペレット肥料作製の実演を真剣に見つめる参加者

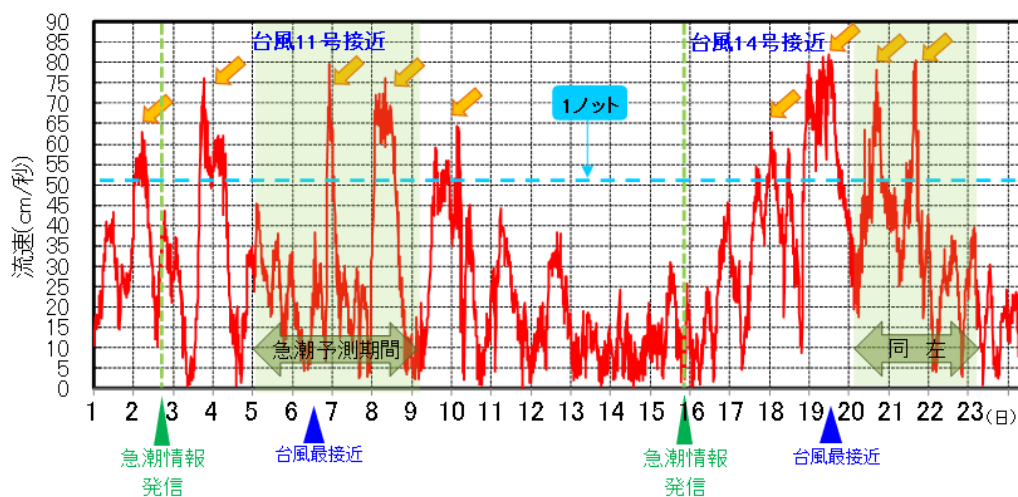
## 漁業者に急潮観測結果を説明しました

当センターでは、定置網漁業に甚大な被害をもたらすおそれのある「急潮」※<sup>1</sup>の発生を予測し、漁業者に急潮情報※<sup>2</sup>を発信しています。予測精度の検証のため、毎年府内6ヶ所の定置網漁場において流向・流速や水温の観測データを収集するとともに、これらの結果を漁業者と共有しています。今年は4~5月に、御協力いただいている漁業者に昨年度の観測結果を説明し、当センターが発信している急潮情報の活用状況を聞き取りました。

急潮情報の発信後に急潮が発生していた結果(下図)に対し、漁業者からは「急潮情報を参考にして(破網を防ぐため)網を撤去する対策を講じている」等のコメントをいただきました。今後も、更なる急潮被害削減に向けて、引き続き取り組んでいきます。

※<sup>1</sup> 急潮:流速1ノット(約50cm/秒、下図水色線)を超える流速を急潮と定義

※<sup>2</sup> 急潮情報:海況情報を基に急潮の程度や期間を予測して漁業者に発信



観測結果例(黄色矢印:急潮)